



## 特別支援教育における魅力ある授業づくり実践編

### 知的障害特別支援学校における教科別の指導

#### —知的障害があり、愛着障害の見られる生徒に対する 感情表現の読み取りに関する指導の実際—

#### 実践のポイント

##### ○学校全体での取組

相手のことを思いやり意図を読みとったりすることが苦手な児童生徒に対し、教育課程全般において「よい関わりをめざして伝え合う授業づくり」を進め、ソーシャルスキルトレーニングや相手の立場になって考える指導を積み重ねています。その結果、感情や行動をコントロールすることが難しかった生徒たちが、日常生活の中でも、少しずつ相手の立場になって気持ちを慮ることが増え、自分の感情や行動をコントロールする様子が見られるようになってきています。

##### ○「国語」での取組（中学部）

授業では、本文中に書かれている様々な事実から赤おにや青おにの感情を、教師とのやりとりや生徒同士のやりとりをとおして、推測していきます。本題材の最後の授業では、自分だけでは気付かなかった青おにの深い愛情に、友だちの発表を聞いて気付き、涙を流して共感する生徒も見られました。相手の気持ちに気付くことができず、話し方が乱暴だったり、すぐに攻撃的な行動をとってしまったりする傾向にあった生徒たちが、国語の指導において丁寧に「聞く力」「話す力」の指導を積み重ねることで、相手の考えを受け入れたり、行動から相手の気持ちを推測することができるようになった実践です。また、感情を表す言葉を獲得することによって、併せて自立活動の課題である感情や行動をコントロールする力も育っていった優れた実践です。

#### 授業実践 題材「登場人物の気持ちを考えて発表しよう」 教材「ないた赤おに」（国語☆☆☆☆文部科学省）P102～111

##### ○題材設定の理由

登場人物の気持ちや行動の理由を考える活動をとおして物語の面白さを深く味わい、友だちの発表を聞いたり、自分の意見を述べたりする活動をとおして「聞く力」と「話す力」を高めたいと考え本題材を設定しています。

##### ○スモールステップで考えられた「国語」の年間指導計画

第一段階では『「聞くスキル」「話すスキル」の学習』を、第二段階では『行動や言葉から感情を読み取り自分なりに推測する学習』、第三段階では『考えたことを言葉で表現する練習』と大きく三つの段階に分けて年間の指導を計画しています。「失敗するのは嫌だな」「みんなから馬鹿にされたら嫌だな」と強く思っている生徒の実態に対し、成功経験を積み重ねていくことで、友だちの前でも自分の気持ちや意思を伝えることができるように、各段階での活動が工夫されています。

##### ○3段階に分けた題材の指導計画

本題材では、生徒の思考する力に寄り添って、以下の三つの段階に分けて授業を計画しています。

- ① つかむ（場面ごと挿絵をヒントに物語の移り変わりをおさえ、あらすじをつかむ）
- ② 深める（物語の中でできごとの順番がわかる、場面での赤おにと青おにの気持ちを考える）
- ③ まとめる（ないた赤おにの気持ちを考える、赤おにになって青おにに手紙を書く）

## 指導・支援の実際

### ○ ワークシートの活用

#### <登場人物の気持ちを読み取る工夫①>

本文中に書かれている行動や言葉を基に、赤おにと青おにの気持ちの変化を捉えていくのに有効なワークシートになっています。この活動を繰り返すことが、相手の気持ちへの気づきを促進することにつながります。

また、生徒が感じたことを言葉で表現できるように、いくつかの気持ちを表す言葉が選択肢になっています。心の中に抱いた気持ちにネーミングすることが難しいのは、知的障害があり愛着障害の見られる子どもたちの特徴でもあります。自分の気持ちを表すとどのような言葉になるのかといった取組ができるのもこのワークシートの優れている点です。

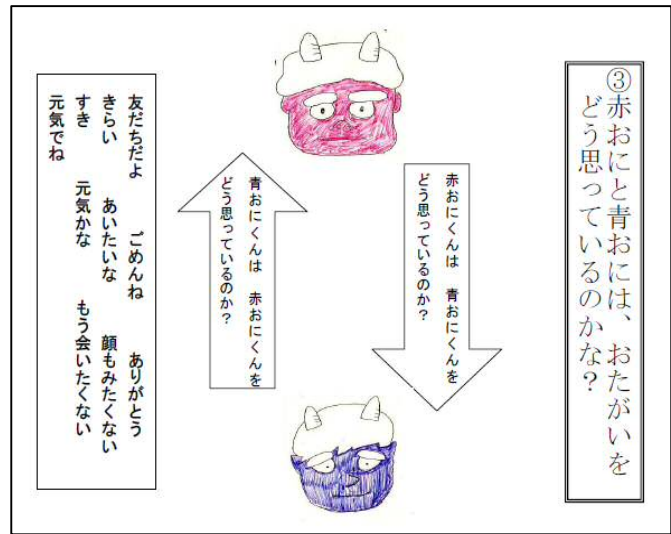


図1. 気持ちを読み取るワークシート

#### <登場人物の気持ちを読み取る工夫②>

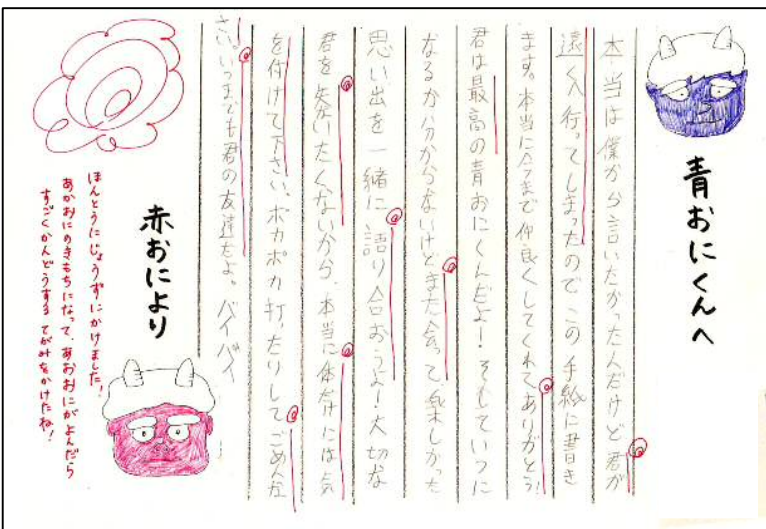


図2. 青おにからの「最後の手紙」に対する返事

#### ○言葉掛けの工夫

言葉でのやりとりが苦手な生徒に対して、教師の言葉掛けは、精選され短いフレーズになっています。

授業者の言葉かけの種類を分析してみると主に、呼名や確認、指示、承認、促しから成り立っていることが分かりました。特に生徒が言いたかったことが本人の意に即していたかどうか、教師が生徒から言葉を引き出しながら、本人だけでは言葉にならなかった思いや考えを丁寧に言葉で表現しながら授業を進めていることが明らかになりました。

本文を読み終わった後に、赤おにから青おにへ「最後の手紙の返事を書く」ことで、赤おにの気持ちや青おにがいなくなった理由をより深く考える手立てになっています。

赤おにのために青おにが犠牲になったことに気付いた生徒の手紙を読むことで、自分だけでは気付くことができなかった青おにの深い思いを理解でき、涙を流す生徒もいました。

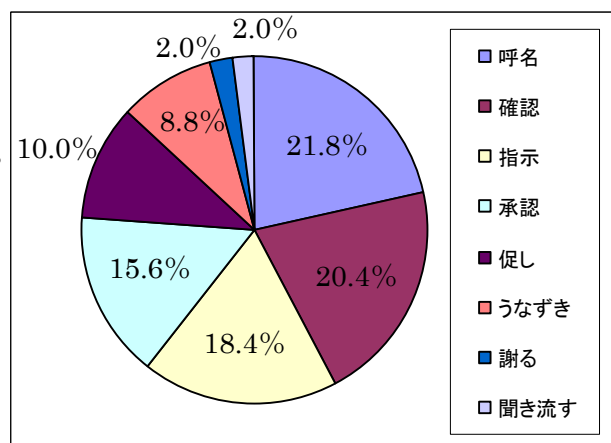


図3. 授業における教師の発話内容